

ダニエルの書 - 第八十九番

誤った教理の解明：アドベンチズムにおける「常供」の歴史的検討

Jeff Pippenger

2024-02-22

このダニエル書に関する連載の第81回の記事では、『Manuscript Releases』第20巻の17～22頁からの一節を掲載した。そこでは、ホワイト姉妹が、“the daily”がキリストの聖所を表すという教えが「天から追放された天使たち」によってプレスコットとダニエルズの両長老に授けられたものであることを明確に示している。彼女は、私がそうしたように“the daily”に関する彼らの誤った考えを実際に特定しているわけではないが、歴史的記録は、彼らがそれを真理として確立しようとしていたことを極めて明白に示している。彼らは、ユライア・スミスの著書『Daniel and the Revelation』のうち、“the daily”の理解を支持している箇所を書き換えようとしていたが、ホワイト姉妹は『Early Writings』74頁でその理解を正しい見解であると認めている。

W. W. Prescottは『The Protestant』という定期刊行の雑誌を発行していたが、その唯一のテーマは「the daily」に関する誤った見解を喧伝することだった。彼と総会会長A. G. Daniellsは、アドベンチズムにおいてその偽りの教理を正統とするためのプレスコットの努力を継続するサタンの先鋒となったが、エレン・ホワイトが存命中はそのサタンの企ての成功は抑えられていた。1931年、ダニエルズは、『Manuscript Releases』の当該箇所が書かれたまさにその年（1910年）に、彼（ダニエルズ）が「the daily」の件でホワイト姉妹と面談し、彼女が彼とプレスコットが抱く見解が正しいと信じるよう導いたと報告した。

この歴史を理解することは重要である。というのも、私たちは今、聖なる改革の系統とダニエル書11章の最後の六節の封印が解かれた1989年にもたらされた知識の増加についての考察を始めようとしているからである。ダニエル書11章40節の成就としてソ連の崩壊とともにもたらされた光を認識するためには、「常なるもの」と、その「常なるもの」によって表されている予言的な歴史が正しく理解されていなければならない。というのも、その歴史は、ダニエル書11章40～45節におけるその歴史の繰り返しを示しているからである。これらの節は、その中で封印が解かれるメッセージが「東と北からの知らせ」であり、それが神の民に対する最後の迫害をもたらすことを示している。

しかし、東からと北からの知らせが彼を騒がせる。それゆえ、彼は大いなる憤りをもって出て行き、滅ぼし、多くの者をことごとく絶やそうとする。彼は海と海との間、麗しき聖なる山に王の天幕を張る。しかし、彼はその終わりに至り、彼を助ける者はひとりもない。ダニエル書 11:44、45。

1989年のソビエト連邦崩壊の時に封印が解かれた第40節のメッセージは、ローマ教皇権（北の王）に「激しい怒りをもって出て行き、滅ぼし、多くの者を徹底的に根絶やしにする」ことをさせる後の雨のメッセージである。「Tidings」は預言的にはメッセージを

意味する。

また、遣わされなければ、どうして彼らは宣べ伝えることができるでしょうか。『平和の福音を宣べ伝え、良い知らせをもたらす者たちの足は、なんと美しいことか！』と書いてあるとおりです。ローマ人への手紙 10:15.

後の雨のメッセージとは、ぶどう園の歌とモーセと小羊の歌を歌う、神の終わりの日の見張り人が宣べ伝えるメッセージである。

山々の上に、良き知らせを伝え、平和を告げ、幸いの良き知らせを伝え、救いを告げ、シオンに向かって「あなたの神は王として統べ治めておられる！」と言う者の足は、なんと美しいことか。あなたの見張りたちは声を上げ、声をそろえて歌う。主がシオンを回復されるとき、彼らは目と目を合わせて見るからだ。イザヤ書52章7、8節

ダニエル書11章44節の「知らせ」が不法の人を激怒させ、最終的な教皇権による流血の惨事が引き起こされる。そのメッセージは第三天使のメッセージであり、間もなく制定される日曜法の時に大いなる叫びへと高まる。

光を受け、第四の戒めの義務を悟るまでは、誰も断罪されない。しかし、偽りの安息日を強制する布告が出され、「第三の天使」の大いなる叫びが、人々に獣とその像の礼拝に対して警告を発する時、偽りと真理との間に境界線が明確に引かれる。そのとき、なおも背きを続ける者は、獣の刻印を受ける。『時代のしるし』1899年11月8日。

教皇権を激怒させる「東と北からのうわさ」は、日曜法のときに「大いなる叫び」へとふくれ上がり、そのメッセージは2001年9月11日に始まった「後の雨」のメッセージである。「大いなる声」という表現は、力が増大していくことを表す予言的な用語である。

この時代の真理である第三の天使のメッセージは、私たちが大いなる最後の試練に近づくにつれて、ますます力を増して大声で宣べ伝えられなければならない。『1888年資料集』1710頁。

四十四節の「報せ」とは、ミカエルが立ち上がり、人類への救いの猶予期間が閉じる直前の「後の雨」のメッセージのことである。それは2001年9月11日に到来したのと同じ「後の雨」のメッセージだが、十四万四千人が印を受け、聖霊が限りなく注がれるとき、「大声の叫び」すなわち「大いなる声」へと膨れ上がる。それは、十四万四千人の封印の期間を特徴づけたのと同じ「後の雨」のメッセージである。

それは、「ろば」の到来から「獅子」の到来までの間に、ラオデキア的アドベンチズムが掲げる「平和と安全」のメッセージによって偽造されてきた「後の雨」のメッセージである。2001年9月11日から、間もなく到来する日曜法に至るまでの期間は、ラオデキア的アドベンチズムにとっての霊的な死の床に当たる時期であり、神の家（エルサレム）が裁かれた後に裁かれる者たちも、同じ墓で死ぬ。ラオデキア的アドベンチズムにとっての死の床は「ろば」と「獅子」の間にあり、彼らが拒み、その結果として彼らの死をもたらすメッセージとは、「東」（イスラムの象徴）および「北」（ローマ教皇制の象徴）からの「知らせ」である。それは同じメッセージ、すなわち第三天使のメッセージである。

1989年の終わりの時に封印が解かれたダニエル書11章の最後の六節は、後の雨のメッセージであり、「平和と安全」という偽の後の雨のメッセージが唱えられている時代に宣傳えられる。後の雨による試練は、裁きがそこから始まるゆえに、まず神の家を試し、その後、神の家の外にいる他の群れをも試す。このため、第三世代においてラオデキア的アドベンチズムに持ち込まれた「偽り」を理解することが不可欠である。というのも、神が封印しておられる者たちの上に聖霊を注がれる一方で、真理の愛を受け入れない者たちの上には同時に強い惑わしを注がれるからである。

20世紀最初の15年間に「the daily」をめぐる論争が続く中、「the daily」は異教の象徴であるという正しいミラー派の立場を擁護した人物の一人が、F・C・ギルバートであった。ギルバートはユダヤ教からの改宗者で、ヘブライ語を完璧に読み話すことができた。彼は、ヘブライ語の理解に基づいてダニエル書における先駆者の立場を擁護した。1910年、数十年にわたって埋もれることになる原稿をホワイト姉妹が書いたまさにその年に（その原稿は「the daily」に関するダニエルズとプレスコットの見解はサタンの天使たちから来たと特定していた）、ギルバートは「the daily」の問題についてホワイト姉妹と個人的に面談した。

私たちは彼が面談したことを知っている。というのも、彼は直ちに（翌日）ホワイト夫人との面談の要約を書き記したからである。1931年、A・G・ダニエルズは、同じ年-1910年に「the daily」という主題についてホワイト夫人と面談したと主張した。ダニエルズは、ホワイト夫人が彼に、「the daily」はキリストの聖所における奉仕の象徴である、という結論以外は何も残さなかったと主張した。しかし、ダニエルズの面談の主張は、単なる「嘘」ではなく、強い惑わしを生み出す預言の「嘘」である。

1843年と1850年の図表を入手できない人のために、次の点を理解しておくことが重要です。1843年の図表が1842年に出版された当時、ミラー派の人々は、二千三百年の預言の成就として清められるはずの聖所は地球であると、なお信じていました。彼らが1850年の図表を出版したときには、清められるべき聖所は天の聖所であることを理解していました。このため、1843年の図表には神の聖所の図は一切ありませんが、1850年の図表には神の聖所の図が含まれています。これは重要です。というのも、ダニエルズはホワイト姉妹との面会で、彼女に1843年の図表を見せ、その図表の中の聖所を指し示したと主張しているからです。しかしそれは不可能だったはずですよ。というのも、1843年の図表には聖所が載っていないからです。彼の面会に関する主張は「嘘」でした。

2009年にこの歴史を調べていたとき、「the daily」という主題についてホワイト姉妹と面談したと、この問題の双方の側にいた男性たちがそれぞれ主張していることに気づきました。そこで私はエレン・ホワイト・エステートにメールを送り、1910年のホワイト姉妹の面談を記録した記録簿にアクセスできるかどうか尋ねました。すると、彼らはその記録簿を今も所蔵していると返答しました。以下は、私のメールとエレン・ホワイト・エステートからの返信です。

2009年1月19日（月曜日）

関係者各位：

シスター・ホワイトと誰が面談し、その面談が何に関するものだったかを記録した日誌があると聞きました。私は、A・G・ダニエルズが1910年に「daily」の件についてシスター・ホワイトと面談したかどうかを、裏付けるか、あるいは否定するかを確かめようとしています。その面談が行われたという歴史的証言があることは承知していますが、これを実際に記録している公式の日誌があるのかどうかを知りたいのです。同時に、F・C・ギルバートも1910年に「daily」の件でシスター・ホワイトと面談したと聞いており、その期間に彼女のスタッフが保管していた日誌によってそれが確認できるかどうかも知りたいと思っています。もしかすると日誌は存在しなかったのかもしれませんが、存在したとしてもその情報を公開していないのかもしれませんが、あるいは、仮に存在しても、そちらでそれを確認するのは難しいのかもしれませんが、いずれにせよお尋ねしたいと思いました。何かしらのご助力をいただければ大変ありがたく存じます。

ジェフ様

メールありがとうございます。彼女の書簡、日記、および公表された予定に基づき、エレン・ホワイトの旅程についてはかなり充実した記録がございますが、いわゆる「ログブック」といえるものはございません。

EGW Biography 第6巻『The Later Elmshaven Years』の256、257ページにある、A G Daniells が Ellen White を訪問した件については、すでにお読みかと思えます。私たちは、この会見についての独立した記録を見つけていません。ただし、1910年6月1日付の Elder Gilbert の書簡があり、彼が6月6日から9日にかけて St. Helena (Ellen White が居住していた場所) にいる予定であることが示されています。私の知る限り、裏付けとなる文書はそれだけです。

神の祝福を Tim Poirier 副所長 Ellen G. White Estate

ダニエルズが「the daily」に関するインタビューを受けたことがあるという独立した記録はないが、1910年6月6日から9日まで彼が彼女の家に滞在する意向であることを示すギルバートからの手紙がある。

エレン・ホワイト・エステートが参照しているホワイト夫人の伝記の中で、彼女の孫がダニエルズのインタビューの問題を取り上げ、1910年の捏造されたインタビューに関するダニエルズの主張を記録している：

討議が少し進んだある時点で、ダニエルズ長老は、W・C・ホワイトとC・C・クリスラーを伴い、『Early Writings』にある彼女の記述の意味が正確に何であるかを本人であるエレン・ホワイトから直接知りたい一心で、彼女のもとを訪ね、その件を彼女に提示した。ダニエルズは『Early Writings』と1843年の図表を携えていった。彼はエレン・ホワイトのすぐ近くに腰を下ろし、矢継ぎ早に質問を浴びせた。この面談に関する彼の報告は、W・C・ホワイトによって確認された：

「まず、私はホワイト姉妹に、『初期の著作』にある上記の記述を読み聞かせた。次に、私たちの牧師たちがダニエル書と黙示録の預言を解き明かす際に用いている預言図表を彼女の前に置いた。図表に描かれている聖所の図と、同じく図表に示されている2300年の期間に彼女の注意を向けさせた。」

「そこで私は、彼女がこの件について見せられたことを思い出せるかどうか尋ねた。」

彼女の答えを思い起こすと、彼女はまず、1844年の運動に加わっていた指導者の何人かが、2300年の期間の終期を示す新しい日付を見いだそうと努めたことを語った。この試みは、主の再臨の新しい日付を定めるためのものだった。これは、再臨運動に加わっていた人々の間に混乱を引き起こしていた。

この混乱のさなかに、主が彼女に啓示されたのだと、彼女は言った。期日に関して抱かれ、発表されてきた見解は正しく、決して再び期日を定めてはならず、また期日に関する別のメッセージを出してもならない、と。

それから私は彼女に、「“daily”に関する残りのこと——王子、軍勢、“daily”が取り去られること、そして聖所が打ち倒されること——について、彼女に何が啓示されたのかを教えてくださいのように頼んだ。」

「『彼女は、時の部分がそうであったように、これらの点が幻の中で自分の前に示されたのではなかったと答えた。彼女は、その預言のそれらの点を説明するように導かれることはなかった。』

「『その面談は私の心に深い印象を与えた。彼女はためらうことなく、2300年の期間については率直に、明瞭に、しかも詳しく語ったが、預言の他の部分に関しては沈黙していた。』」

「彼女が時に関しては率直に説明した一方で、『daily』の取り去りと聖所の打ち倒しについては沈黙していたことから、私が導き出せた唯一の結論は、彼女に与えられた幻は時に関するものであり、予言の他の部分についての説明は彼女には与えられていなかったということであった。-DF

201b、AGD声明、1931年9月25日。」アーサー・ホワイト『Ellen G. White』第6巻、257。

Daniellsは、彼女に1843年の図表を見せ、その図表に表されていない聖所について尋ねたと主張した。彼はまた、書籍『Early Writings』を持ち出し、彼女が「the daily」に関する先駆者たちの理解を明確に支持し、さらにその図表が主の御手によって導かれたと述べたことの意味を、質問攻めにしたと主張した。この出来事とされるものの概説を書いた伝記作家Arthur L. Whiteの父であるEllen Whiteの息子は、「the daily」に関するDaniellsとPrescottの悪魔的見解を受け入れており、面談で彼が聞いたとする内容についてのDaniellsの主張に証言した。そもそも彼らの作り話は杜撰で、1843年の図表にはDaniellsが指し示すことのできるような聖所は表されていないからである。

そのインタビューで示されているもう一つの虚偽は、『Early Writings』の一節が「時期設定」に対する警告だったという嘘である。ダニエルズが質問したとされる箇所は次のとおりである。

私は、1843年の図表が主の御手によって導かれたものであり、変更してはならないことを見た。また、そこに記された数値は主が望まれたとおりであった。さらに、主の御手がその上であっていくつかの数値にある誤りを隠しておられたため、その御手が取

り除かれるまで、誰もそれを見抜くことができなかった。

それから、私は『daily』（ダニエル8:12）に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を『裁きの時の叫び』を告げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致が保たれていたときには、ほとんどすべての人が『daily』についての正しい見解で一致していた。しかし1844年以降の混乱の中で、ほかの見解が受け入れられ、暗闇と混乱が後に続いた。『時』は1844年以来、試しとはなっておらず、再び試しとなることは決してない。Early Writings, 74, 75.

ホワイト夫人の息子ウィリー・C・ホワイトは、「the daily」に関する誤った見解を受け入れていた。そして彼の息子アーサーは、『Early Writings』の一節にある警告は単に、もっぱら期日設定に対する警告にすぎないと示唆しようとするので、決して行われなかった面談に結びつけられたその「嘘」を存続させようとした。その主張は1930年代に作り出され、その「嘘」の主要な部分となった。

その議論は次回の記事で取り上げます。

9月23日、主は、ご自分の民の残りの者を回復するために二度目に御手を伸ばされたこと、そしてこの集めの時には努力を倍加しなければならないことを私に示された。散らしの時にはイスラエルは打たれ、引き裂かれた。しかし今や集めの時には、神はご自分の民を癒し、その傷を包んでくださる。散らしの時には、真理を広めようとして払われた努力はほとんど効果がなく、わずかしか、あるいは何も成し遂げなかった。しかし、神がご自分の民を集めるために御手を伸ばしておられる集めの時には、真理を広めるための努力は意図された効果をもたらすだろう。皆が一致してこの働きに熱心であるべきだ。私は、今の集めの時に私たちを律する模範として散らしの時を引き合いに出すのは、誰であれ恥ずべきことだと見た。というのも、もし神が今あの時以上のことを私たちのためになさらないのなら、イスラエルは決して集められることはないからである。真理は、宣べ伝えられるのと同様に、紙上に発表されることも必要である。

主は私に、1843年の図表は主の御手によって導かれ、そのいかなる部分も変更してはならず、数字も主が望まれたとおりでであることを示された。さらに、主の御手がその上であって、いくつかの数字にある誤りを覆い隠しておられたため、御手が取り去られるまでは、誰にもそれは見えなかった。

それから私は、『Daily』に関して、『sacrifice』という語は人間の知恵によって補われたものであり、本文に属するものではないこと、そして主はその正しい見解を「裁きの時の叫び」を上げた者たちにお与えになったことを見た。1844年以前、一致があった時には、ほとんどの者が『Daily』についての正しい見解で一致していたが、1844年以後は混乱の中で他の見解が受け入れられ、闇と混乱が後に続いた。Review and Herald、1850年11月1日。